



第20号

# 町長のまちづくり奮闘記

～元気で笑顔のあふれる福島町を実現するために～

【地元事業者の元気を感ずる・・・】

私の選挙公約の一つである「福島町がんばる地元企業等応援条例」が4月1日からスタートし、漁業者を中心に建築業、商工業及び農業にと幅広く活用され、5月11日現在で相談受付71件、申請52件となっております。

助成見込額で約6千万円、施設投資額で約1億5千万円の経済効果となっており、私どもの当初の予想をはるかに超える状況となっております。

地元の事業者が元気で事業を継続、発展させるための支援策ですが、当事業助成により町内の経済循環が生まれ、地元事業者の底力を改めて感じております。

桜が咲き始めた4月26日(水)、函館港に米国の豪華客船「ダイヤモンド・プリンセス号」が今年初めて入港いたしました。

着岸した港町埠頭で地元への歓迎を受けた後、当町の横綱記念館、青函ト

ネル記念館及び福島大神宮を見て、日本の伝統文化に触れて、福島町の観光を楽しんでいただくことができました。

私も横綱記念館で見学者の方々をお迎えし、歓迎のあいさつをさせていただきました。

なお、当町を訪れた一行は、1回目35名で、2回目32名となっており、それぞれガイドさんの説明を聞きながら、興味深く展示品を眺めるとともに、横綱記念館の土俵では、外人の男性2人が実際にまわしを締めて相撲を体験し、上がり座敷で見ていた皆さんの笑いとお拍手が館内に響き渡っております。

最近、よく「インバウンド」という言葉を耳にいたしますが、インバウンドとは日本を訪れる外国人観光客のことを表現したものです。

昨年の北海道新幹線の開業や豪華客船によるク

ルーズなどにより、日本を訪れる外国人が増え、函館市を中心とした道南地方でもインバウンドが増えてきております。

当町には、日本の伝統文化の相撲が体験できる「横綱記念館」、世紀の大工事の記録をじかに見る

ことができる「青函トンネル記念館」があり、これらの貴重な資源を生かしつつ、地元食材を活用した食文化で、訪れる方々をどうおもてなしできるかが、これからの重要な課題と考えており、皆様と知恵を出して新たなものを創り上げてまいりたいと思います。

4月20日(木)に、北海道町村会の総会が札幌市で開催され、白糠町の棚野町長が会長に再任されております。また、渡島町村会の会長であります大森木古内町長が副会長に新たに選出され、渡島地域の振興・発展に繋がるものと期待しております。

ます。

ます。

5月3日(水)、春の殿様街道・探訪ウォークが「伊能忠敬・間宮林蔵(子弟の道)」をテーマに開催され、町外から多くの方々に参加され、野草が咲く春の千軒路を楽しんでいただきました。なお、同日は、塩釜の丸山神社祭もあり、薬師さんへお参りをさせていただきましたが、年々鹿の被害が広がっている気がして参道が心配です。

古来の教えに、人間は本来的に素晴らしい素質を持つているが、生活の安定がなければ、人の心は揺らぎやすく、経済基盤がしっかりとこそ、人心の安定も図れるものです。

そのためには、まずリーダーが人々の暮らしを安定させる施策を持つ必要があります。

晴雨に関わらず常に恒心を持ち続け、町の安定を図りたいものです。